

生駒市ナラ枯れ対策懇話会 第2回会議録（要点筆記）

- 1 開催日時 平成30年2月23日（金）午後2時00分～午後4時00
- 2 開催場所 生駒市役所 4階特別会議室
- 3 参加者 磯貝氏 後藤氏 田中氏 出口氏 山田氏 山田氏 山本氏（五十音順）
（事務局）林みどり公園課長 岡田経済振興課長 巽経済振興課長補佐
高橋経済振興課農林係長 吉田経済振興課農林係副係長
- 4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 0名

5 議題

- (1) ナラ枯れについて
- (2) ナラ枯れに対する県の取り組みについて
- (3) 生駒市におけるナラ枯れの状況と対策について
- (4) 森林ボランティア4団体のナラ枯れ調査活動報告について
- (5) その他

6 審議内容

(1) ナラ枯れについて（説明）

参加者から説明

参加者 ナラ枯れとは何か、発生の時期、被害を受ける樹種、ナラ枯れの原因、ナラ枯れのしくみ（カシナガとの関係）、穿入生存木、防除、枯死木の活用についての説明。

参加者 ナラ枯れの木に限定せず、シイタケの栽培をしている。写真ではナラ枯れになった木をお湯につけて植菌すればいいと出ているが、実際にはこのように輪切りにして沸騰させて、また乾燥させて時間を置いてから植菌するのか。

参加者 お湯につけて30分くらいで焚きあがるので、原木が冷めたらすぐ植菌する。置いておくと雑菌が湧きやすくなるので、冷めたらもう植菌して問題ない。なんならもう焚きあがった後に水に浸けて急速に冷まさせて、植菌することもある。

参加者 2年くらいかけていろいろな打ち方で、ナラ枯れの樹木の枝を使ってシイタケの菌を打ってみた。蒸したりゆがいたりして殺菌するのか？

参加者 蒸す方とゆがく方の両方ある。

参加者 ドラム缶が手に入らない。鍋ではできず、直にやってみたがうまくいかなかった。まったく出なかったので、やはり一回殺菌しておかないといけないということか。

参加者 ナラ枯れの枯死木にシイタケの菌を打つというのは、よそでもいろいろされているが、被害木の中のナラ菌、他の菌も中にいっぱい入っている。初期の頃に枯れたものは一応シイタケの菌を打つと効果があると言われているが、それが遅くなるとシイタケの菌の方が負けてしまって、中でよく菌を回すことができなくなって発生しないということがあるようだ。だからナラ枯れになった直後に打つといいとは言われている。ただ、木の中の菌と菌の競争のため、多少種類は少なくなるというのとまったく出ないという波があるというのが言われている。

座長 ドラム缶の蒸す形のは、ナイロンか何か使うのか。

参加者 袋はキノコの耐熱用の袋を使う。普通のビニール袋だと熱でやられてしまう。

(2) ナラ枯れに対する県の取り組みについて（説明）

参加者から説明

参加者 ナラ枯れの被害について、全国的には平成22年がピークで23、24、25と減少、27、28で少し増えた状態を保っている。他県とか比べると28年度から奈良県が全国1番。奈良県内の被害量の推移について、はじめに奈良市若草山のところで平成22年に発見され徐々に増え、27年でかなり増えて、28年に爆発的に増えた。29年でもまだ減る傾向にはない。そのうち生駒市は、24から14㎡と増えており、27にかなり増えて、28に爆発的に増えて、29は北部のものが収まってきたのでトータル的には減って来ている。しかし県全体から見ると生駒市が一番多いことに変わりない。被害の区域の推移について、平成25年以前、26年は生駒市、奈良市辺りの県の北部の所の張り付いた辺りだけだったのが、徐々に南へ移って行って東の方へも移って行っているという状況で、29年速報値で生駒市、奈良市も減少傾向にある。中部の辺りの二上山の筋や桜井市、橿原市辺りが29年度は赤く目立ってきている。奈良県はまず22年出た時から地元で防除報知器かけてやったところだが、初期の被害拡散防止であったものをいっきに27、8と増えたということがあるので、防除方法見直して保全すべきナラ・シイ・カシ類林というエリアを決めて、そこの予防に重点を置くという方針に変えてきている。

それ以外の森林はどうするかということだが、優先的ではないがナラが枯れた後、放っておくと倒れて危険ということもあるので、そういった伐倒だけは力を入れるというように指針を変えて現在取り組んでいる。

緊急森林被害対策事業の概要と、主に県の市町村の補助金等の報告。29年度の予算だが、財源は県の森林環境税を使っている。

被害現地調査について、発生地において職員の現地調査また森林技術センターでいろいろな研究、先程の研究等に使っていただいている。上空から撮影したのを見ると、生駒市付近の所でくろんど池のところ枯れ切っている状態、生駒山頂付近がこのような感じで、生駒市南部、平群町に近い方のエリアはまだ真っ赤であるという状況です。

参加者 くろんど池というのは見た感じすごく赤いのが減っているが何故か。

事務局 くろんど池周辺についてはかなり伐採していますが、おそらく枯れたら赤い葉っぱが1年目は出ているが、2年目以降は葉っぱが落ちている状態になり、写真には載っていないということかと思う。

参加者 都道府県別ナラ枯れ被害というところで奈良県の北部に集中しているのは何か原因があるのか。

参加者 25年は京都、27年は大阪が多かった。そのため生駒市に流れていると思われる。

参加者 繁殖できる場所を求めて移動しているというような考え方ですかね。ある程度太い木の方が繁殖しやすいのでそれを求めてということと、1回入った木、入って生きている木というのは繁殖できないので、新たな繁殖場所を求めて移動している。そうすると、どうしても京都や大阪にまず入り、遅れて奈良に入ってくるというようなパターンになる。

参加者 駆除の方法で、なかなかこれというものはないのか。

参加者 100%これという方法はなく、国の方もその地域にあった取組・やり方を、という風なことを言っている。

(3) 生駒市におけるナラ枯れの状況と対策について

事務局による説明

事務局 生駒市のナラ枯れ対策の取り組みについて説明

森林ボランティアの方に平成28年度ナラ枯れ調査していただいて、実際に通知したものが84本でした。ナラ枯れ処理の実績については、平成25年から29年度までの合計本数が、公共施設728本、民間への補助金197本、合計925本となっています。年度別に見ると、平成25年度については65本、平成26年度については177本、平成27年度については179本と徐々に増加しているという状況です。

参加者 直接ナラ枯れではないが、カエンダケがものすごく発生している。聞いている範囲ではナラ枯れが発生した木の根元にカエンダケが発生しやすいと、それで私たちが現場を見ていると、ほとんどがやはりナラ枯れの根元である。我々が活動している西畑の山林で顕著に去年の夏頃から出てきて、埋めているがそのカエンダケについては何か考えはあるか。

参加者 埋めるということは林業振興課の方でやっている。見つけたら埋めてくださいということを言っているが、年3回やっているナラ枯れ対策協議会でも報告している。林業振興課のホームページにも注意喚起を載せている。

参加者 出てきたら目につくので埋めるがまた出て来る。同じ木で3回くらいカエンダケを取ったことがある。取ったと思って、1、2週間経って同じ木の所に行ったら、同じ木だけどまた別の場所にカエンダケが出ているということがあるので、木の周りで繁殖しているようです。

(4) 森林ボランティア4団体のナラ枯れ調査活動報告について

参加者から説明

参加者 今回は南側ということで308号から南側をやらせていただいた。前年度に比べて本数が少なかったということで、終息しているように感じる。それから重複するところがあって前年度と前々年度と。現場に行ったら生駒市さんが処理された跡を何本か見ており、うちのメンバーも生駒市さんがちゃんと処理してくれているというのを目で見、自分たちの活動がちゃんとフォローされているという意味では喜んでいる。

参加者 今おっしゃられたように調査結果を市の方でフォローしているというのがわかるというのは確かにやりがいがあったと喜んでます。現状は先程の航空写真、葉っぱが茶色く枯れている段階のものが上から写っているわけで、他の参加者の方からも指摘があったが、葉っぱが散ったあと枝が落ち始めている。かなり太いや

つまで落ちてきている。どちらかといえば今の方が危険ではないかという状況にある。山麓公園でもそういう状況があり、矢田丘陵も年2回入らせてもらったが、まさに太い大きな幹が落ち始めている。これは周りの緑に隠れて上から写したのでは多分写らないだろうと思う。そういう意味では幹がどんどん落ち出した今の状況の中でどんな風に危険回避していくのかそういうことが気になり始めている。

座長 たまに生き返っている木もたまに見るが、枯れて枝はだいぶ折れているが、下の方から新芽が出ている木も中にはある。そういう木は生き残っていくのか。前に6割くらい残るだろうという話もありましたが。

参加者 そうですね。穿入して枯れない木は生き残ると、常緑だが枯れたふりをする木もあるので一旦葉っぱを全部落としてしまうが、茶色くなって、4月、5月になるとまた芽が増えていくという例もそんなに多くはないがあります。それは一回確認の意味で秋に行ったとしても分らない。

参加者 鹿ノ台でも数年前サランラップのようなので巻いていただいて、確かに数本は枯れましたが生き返っているのもある。全部枯れるわけではないようです。

参加者 今回の調査畑はエリアが狭かったので対象本数出なかった。矢田丘陵にそった住宅地はエリアの中では半分くらいが枯れていて、残りの南側の第2阪奈沿いの入口辺りまで行くと減少していた。その中で、当然生駒市側で対応されたものもあり、それでもまだ危ないと思うものが残っておりました。ちょっと確認した中でも危険木があるということは、まだ残っているような気がする。私の普段の担当エリアでは、私の足くらいの枝が落ちている。それが遊歩道のところに転がっている。最近ではだいぶ切ってもらったが、完璧ではないと思う。4、50cmくらいの木では我々では手が出ませんので、業者さんがするのを見ていると、勉強になるし、そういうのをやる時にもったいないから我々も呼んでくれれば時間調整して行く。また、北部地区でもまだまだだし、生駒山の東山麓はもうすごく荒れている。あれは何とかしなければならぬと思いつつながら、我々が何とかして治まるような場所ではないし、生駒市として考えていただけたらと思います。

参加者 一つ目は、我々が調査したエリアは地図番号17番です。その17番を27、28、29と本数を見ましたところ27年度12本、28年度33本 29年度が15本、ここで一つ言えることは確かに27年、28年は相当本数が増えている。これは奈良県さんの調査でも28年がピークですが、29年度が28年度から半減しているということは生駒市さんが相当量半分以上処理をしていただいたとい

うことがこの数値から見られると思います。

二つ目は、我々は鹿ノ台の活動で12haの緑地整備をやっています。その中でナラ枯れがありますとどうしても危険なので、生駒市さんの方では、境界から2mくらいの危険木だけが対象ですけど、そこを利活用している私たちは中の方まで切らなければいけないというのもあり、現実には切っています。残念ながらそれでは補助金はいただけない。奈良県の森林環境税の県税については項目が対象ではないと担当者から言われたので、自分達でやっている。利活用を進める上においては、その辺をお考えいただければなと今後の課題でお願いしたいと思います。

座長 今、最後におっしゃった話は、先程の県の取り組みの中で入れていただいている森林被害ということに入りますか。

参加者 緑地だから森林の中だと思う。森林被害というのは街路樹という話です。

参加者 街路樹とか家の中とかです。

参加者 そういう意味ですよ。我々はもう完全な森林ですから名称が緑地というだけ。それぞれフィールドを利活用しますので、自分達でやっています。

事務局 被害の市町村有林で市町村が実施させていただいた、緑地でも誰でも入れるように整備している遊歩道とか、いうところについてはみどり公園課の方で伐採したりしている。誰でも入れないが緑地も広いので緑地の真ん中くらいにあるようなところについては処理させてもらっていない。相談を受けたかと思うが、その緑地の方でナラ枯れしている部分については、市の方から県の方に市が実施した分については、その県の要綱に合致した分については市が実施した分については、県補助もいただいているが、その緑地の分で県の補助対象でないということで、申請はさせてもらっていない。対象外というか市が森林で誰でも入っていただけるようなところについては市の方で処理させてもらっている。遊歩道に隣接しているようなところは市の方で処理させてもらっている。12haの中で活動していただくのに支障になると思われる分については、その活動されている方のご意思で切っていただいているのが現状です。補助対象という風な所に合致していかないとところで申請はさせていただかなかった。

参加者 活用されないところの木は切らないのか。

事務局 いえ、緑地でもみなさんが入っていただける遊歩道で、枝が危ない、倒れたら危

ないようなところは市で積極的に切らせていただいている。

座長 今の話をちょっと整理すると基本的に民有林に関しては、県以外でも生駒市独自の要綱を作って、一応補助をするということを行っている。今お話があるのは公有林、市が持っている土地の中の公園というものはきちっと公園法に基づいて管理しているものなので、その分については市の方の費用で県の補助金を使いながら対応しているということです。一方、緑地というのは生駒市内に緑地はたくさんあり、その中でその緑地の中を市民の方か影響があるようなところに関しては市の方で一応対処しているということを行っているのだろうと思います。そうでないところに関して全部市の方で切っていくというのはなかなかお金の問題もあってできないと言っているのだと思うが、その辺の微妙なところに関しては原課と協議しながら進められたらと思います。

参加者 駄目という風に担当者に言われるので、それならもう自分でやりますと。今年も申請の時申請したが担当者にだめと言われた。そう言われたらやめるしかない。制度があるであれば、ちゃんとしてあげたらいかがでしょうか。

座長 いろいろご指摘もいただき、こういう形でご協力いただいて進められるということは、生駒市としても本当にありがたいことだと思います。県内でもナラ枯れ対策で、これだけのきちとしたご団体の方が市と一緒に動いていらっしゃるという例は多分ないと思う。そう意味では県内でも一つご紹介をいただいて、他市の方にもお話していただけるのもありがたいと思うのでどうぞよろしく願います。

(5) その他

事務局による説明

事務局 平成30年度のスケジュールは、今年度にボランティアの方に調査していただいたものを再度、市の方で調査、確認するのが5月頃、その確認したものをもとに所有者を調べ、9月頃に注意喚起を発送し、その後ナラ枯れの庁内会議を11月頃に行い、先程県の方に色々ご説明いただいたように、ヘリで空中の調査や調査結果の報告をいただき、12月頃に市の官有地についても業者発注し、ナラ枯れの処理の方を進め行きたいと考えています。